

第2回中国圏広域地方計画協議会及び
中国ブロック国土交通懇談会 合同会議
議事要旨

日時：平成21年7月10日（金）10:00～12:00

場所：リーガロイヤルホテル広島

クリスタルホール

敬称略

1. 開会

2. 挨拶

（国土交通省技監）

- ・「国土交通大臣 挨拶」代読。

（会長：広島県）

- ・この中国地方が今後とも豊かで暮らしやすく、競争力の高い地域として発展していくよう、忌憚のない活発なご議論をいただき、本協議会が実り多いものになるようお願いしたい。
- ・広域地方計画は本日の審議を経てこの夏には国土交通大臣決定の予定であり、計画が成案となった後は、皆様を始め幅広い連携と協働により計画の着実な実現を図っていただくことをお願いしたい。

< 会長退席、議事進行は会長代行（中国経済連合会会長） >

3. 議事

（1）中国圏広域地方計画について

（2）中国ブロックの社会資本の重点整備方針について

- ・・・資料説明（事務局）

（3）意見交換

（鳥取県）

- ・中山間地域の振興、農林水産業の振興など、広域的な視点でのとりまとめということで、圏域内外、あるいは日本海を挟んだ東アジアの国々との交流に期待する。
- ・道路等のネットワークについては、少しずつ形が見えています。山陰自動車道はまだまだだが、これからに期待、中国圏と近畿圏を結ぶ鳥取豊岡宮津道路も計画に位置付けられ、これまで以上に圏域を越えたところとの連携も深めていきたい。
- ・広域連携については従来、韓国、中国、ロシアといったつながりがあり、6月末に境港と韓国の東海、ロシアのウラジオストクを結ぶ定期貨客船が就航したので大いに飛躍していくと思っており、最新の写真など提供させていただきたい。
- ・社会資本整備方針について、事業化しているところのみでなく、5年間の計画であれば将来に含みを持たせていただきたい。例えば見直しもあり得るということを明記されたい。
- ・ハードを使うにはソフト面も必要。今年、鳥取砂丘で世界砂像フェスティバルを開催し、

高速道路の土日 1,000 円も効き、35 万人の集客があった。

(島根県)

- ・ 島根県は、広域地方計画・重点整備方針について、高速道路を中心とした社会基盤整備の推進、北東アジアゲートウェイの整備、中山間地域の支援の 3 点を特に主張してきたが、いずれも計画・方針に反映していただいた。
- ・ 今後は、プロジェクトの実現に向けた取組が重要で、県としても積極的に取組を進めていきますが、国においても山陰道、尾道松江線の一層の事業促進を図っていただきたい。

(岡山県)

- ・ 隣接圏域との交流連携の中で、特に四国圏域との交流を密接に進めることが重要であり、そのために瀬戸大橋等の利用しやすい条件整備が必要。こうした中、高速道路料金の値下げにより、GW 期間中の瀬戸大橋や山陽道、岡山自動車道等の交通量が増加しており、地域間交流を進める上で高速道路の重要性が改めてクローズアップされた。今回の値下げを 2 年間の暫定措置ではなく恒久的にさせていただくよう、今後関係機関に提案していき、本四架橋、高速道路ネットワークを有効に活用して圏域内外の交流連携に努めたい。
- ・ 循環型産業における広域的ネットワークの形成が重要、中四国の大学、企業等有する技術シーズ、ニーズのマッチングにより、関連ビジネスの発展などにつなげていきたい。中四国の環境関連企業との連携をさらに進めるべく、中四国環境ビジネスネットを立ち上げた。今後、この広域ネットワークを充実発展させ、新たなリサイクル商品の開発などに努めていきたい。
- ・ 中四国の連携を強化しつつ、県の特徴を生かした取組を進め、中国圏広域地方計画の将来像の実現に向けて努力していきたい。

(広島県)

- ・ 本県はこれまで、中国圏の一体的な発展のために、高速道路ネットワーク整備による中国圏全体の時間距離の短縮を図ること、中長期的視点に立って中山間地域を維持する担い手の生活を支援する仕組みなどの検討が必要なこと、これからの地域づくりには人材育成が重要であることの見解を述べており、市町村提案では広島空港へのアクセス強化、広域的な観点からの道路整備等の提案があったが、これらについてプロジェクトに主旨を反映していただき、社会資本の重点整備方針についても広域地方計画と整合性を図りながら主要事業を反映していただいた。
- ・ 計画を策定した後、これを着実に推進することが重要。この協議会が存続することから皆様方や市町村、ブロック内の多様な主体との連携・協働により計画を推進する必要がある。

(広島市)

- ・ 観光のところにプロの野球、サッカー、オーケストラなど、スポーツや文化を観光に生かしていくという視点を書き加えていただきたい。これらを直接体験できることが観光資源になるのではないかと。

(岡山市)

- ・ 岡山市は中四国のクロスポイントに位置する地理的優位性、拠点性があり、また医療、保険、福祉、環境教育といった分野で全国的にも強みがある。こういう強みを発揮しながら町づくりを進め、広域圏の発展に役割を果たしていきたい。

- ・広域地方計画では広域交通の利活用、農業の再生、低炭素循環型地域づくり、瀬戸内海ブランドの創出について申し上げ入れていただいた。その中でも広域交通の利活用という点について、広域圏の交流を一層促進していくためにはまだまだ交通のネットワーク整備が十分ではない。今後とも道路ネットワークの整備に着実に取り組んでいただきたい。
- ・四国圏域との交流を特に重視しており、瀬戸大橋を含む高速道路料金引き下げについては恒久化をしていただきたい。地域への貢献に資すると考える。
- ・来年、せとうち国際芸術祭が開かれ、岡山市域の唯一の離島である犬島も会場に予定されています。こうしたものを活用しながら地域の盛り上げを図ることも重要ですので、今後ともご活用いただきたい。
- ・岡山市は、他の神戸や横浜、大阪などと違い、農業都市の特性を持っており、新規就農者の総合的な支援や米粉の普及など重要施策として取り組んでおり、国の方からのご支援をいただきながら推進していきたい。

(北九州市)

- ・グローバル化の進展や東アジアの飛躍的な経済成長が進む中で、中国圏と九州圏が戦略的に交流連携を深めることは、両圏域の競争力を高めることに大きな効果があり、結節点の一つである本市は、その中で重要な役割を担っていると考える。
- ・海峡横断プロジェクトとしての関門海峡道路について、現下の社会情勢や厳しい経済状況などを踏まえて原案のような書き方になったことについて、やむを得ないが残念。関門トンネルは開通から50年が経過し、改修工事が必要ということで、長期間の通行止めが想定されている。関門橋も開通から35年が経過しており、また風速が20m/秒を超えると通行止めとなる。中国と九州を結ぶ幹線道路ネットワークは極めて脆弱さを増している。関門海峡道路については新たな道路を造ることによる両圏域間の連携交流強化という側面もあるが、主要な国土軸が機能不全に陥る危険性を回避するというリダンダンシーの観点からも、重要性が増す一方であり、引き続きプロジェクトの必要性、重要性を訴えると共に、取組を強力に進めていきたい。

(総社市)

- ・国際交流について、外なる国際化よりも内なる国際化にもっと本腰を入れたほうが良い。自国のマンパワーでは老後を迎えられない、特に介護、看護などで立ち行かなくなる。もはや外国人を迎え入れることを国の方針にした方がいいのではないかと。
- ・我が国には多文化共生の成功事例がないため、中国地方がまず、成功事例を作るべきだと思う。そのために定住外国人の子供を教育の現場に迎え入れること、コミュニティの中に彼らを迎え入れること、彼らのライフライン、生活支援、出産、医療など行政サービスのあり方を考える等といった具体的な取組を行い、中国5県が一体化して多文化共生に努め、その先進都市となるべきと考える。

(萩市)

- ・日本海側の各市町は運命共同体であり、萩市は浜田市、益田市との3市長合同会議を毎年開催している。それぞれの自治体としての存続も考えなければいけないが、単独の市だけでは考えていけない時代になってきている。そうした中で山陰、特に日本海の都市を結ぶ高速道路が完全な線でつながることが、今後の地域の存続をかけた事業ではないか。

- ・人口減少が言われているが、萩市でも、毎年高校卒業生約 500 人のうち、9 割が他の地域、主に都市部に流出している。中山間地域も多くかかえており、第一次産業に依存している部分が多いが、実業高校などと地域との連携ができていない。そのあたりも今後考えていかなければいけない。

(安芸太田町)

- ・中山間地域の現状はもっと厳しいものがある。すぐさま取り組んでいかないといけないたくさん課題があり、もっと短期間で見直しをするスケジュールも検討していただきたい。
- ・地域を守っていくには、国際的とは言わないまでも、いくらかの価格競争に立ち向かえるような基盤整備が必要である。併せて直接支払制度の堅持・拡充、あるいは森林環境税の創出などといったことも、中山間地を維持し、発展させるために必要である。
- ・業として成り立たない山や畑は荒廃しており、不在地主が多くいる。計画の中でも所有から利用という表現もされているが、具体的に進めていく方策を盛り込んでいただきたい。

(中国地方商工会議所連合会)

- ・中国地方が新たな飛躍を図っていくためには定住と交流の促進によって地域の活力を高め、自立した広域の交流圏を作っていくことが重要。中国地方は個性豊かな都市圏と多彩な産業・技術の集積があり、これを生かした広域交流圏を形成することが必要で、そのために、地方都市間を結ぶ十分なネットワークの形成が必要である。ネットワークの整備については、費用対便益を重視されるが、経済性以外に防災、医療など、外部効果も重視し、総合的に整備することが必要。
- ・観光推進プロジェクトにある他圏域との連携促進という視点は非常に重要。一例ですが、四国圏の愛媛と中国圏の広島がリンクすれば、瀬戸内海を介して世界中に売ることができ、そういう観光圏を作っていくことができる。毎年、愛媛と広島の間県知事と両商工会議所連合会会頭の 4 名で交流会議を開いており、しまなみ海道 10 周年で記念イベントを行っており、他圏域とスクラムを組んでやっていく、魅力的なものを作っていくことは非常に重要です。
- ・この計画が、着実に実行に移されて、圏域が一体となって発展することを祈念しています。

(有識者)

- ・広域地方計画は一般の方々ほとんどご存じない。新聞でも取り上げていただけない。今までの全国総合開発計画もそれほど人々に知られていなかったが、開発という言葉が前に出っていたので結構関心はありました。港湾、空港、高速道路、コンビナートの誘致など今回はないので、人々にはあまり認識されていない。
- ・15 のプロジェクトが提言されていますが、どこか住民の方々が参加できるものをネタにして、それを突破口に全体の知名度を上げ、住民運動というような形で評価されるようになってほしい。例えば瀬戸内海はゴミだらけです。日常的に、ゴミを拾って帰るとお得になるというような制度、瀬戸内海でゴミをなくしたらお得になるという制度をぜひとも考えていただきたい。15 のプロジェクトの中で住民運動としてできることを目玉にして、広域地方計画の住民運動化が考えられてもいいのではないかと。
- ・計画ができておしまいではなく、15 のプロジェクトがどれだけ進んだかを時々関係者が集まって、プロジェクトの実現評価監視委員会のようなところで点検し、実際に実施の方向に

向かって進んでいただきたい。

(中国経済産業局)

- ・プロジェクトの中に瀬戸内静脈物流などが入っていますが、瀬戸内には廃棄物を出すだけでなく、廃棄物を資源として活用しているところもあります。これをうまくマッチングさせ、リサイクルポートなどを活用し有機的に連携していけば、廃棄物の有効利用はもっと進むのではないかと思います。
- ・太陽光など、新エネルギーについて普及させていく必要があります。学校についてもスクールニューディールという太陽光発電導入事業があり、太陽光発電に係る技術開発も含めて、次の新しい産業の核となるよう応援していきたいと思っております。

(中国四国農政局)

- ・農地法の改正を6月17日に成立している。不在地主が重要な課題という話があったが、この中で今までは利用集積について全員同意がないとできなかったが、5年未満については半分を超える同意で利用集積できるというような、さまざまな仕組みを盛り込んでいる。今後各県に説明し、皆さんの意見をいただきたいと思っている。
- ・直接支払について、中山間地域が7割ある中国圏においては非常に重要な制度であり、22年に向けて見直しの時期なので、継続と充実について検討していきたい。

(中国運輸局)

- ・中国地方は国の宿泊統計を見ても他ブロックと比べてまだまだ外国人を中心に非常に低い数値ですが、逆に言うとこれから伸びる分野である。経済界、各県の発展推進会議でも広域観光を取り上げており、皆様のご関心をいただいているので、引き続き、広域で、それぞれの地域で効果的にできるようにやっていきたい。

(会長代行)

- ・事務局から、今出された意見に対して、コメントできるものがあればお願いしたい。

(事務局)

- ・非常に多くのご意見をいただいたが、おおむねそれぞれの計画、方針についてはご評価いただいたということで、基本的にこの方向でまとめさせていただきたい。
- ・重点方針について、閣議決定している重点計画の全国計画には、見直し規定が盛り込まれている。それを受けたブロックの計画方針にさらに触れるかは検討させていただきたい。
- ・観光・スポーツ・文化関係、多文化共生といった切り口、中山間地域での施策の盛り込みについて、いずれもそれなりに記述をしている。意見をふまえてさらに記述が必要かは事務局で検討させていただきたい。
- ・四国との交流の関係は、7月8日に中国圏と四国圏の広域地方計画の合同協議会を開催し、両圏域で連携して取り組む施策について報告書を取りまとめており、瀬戸内海を巡る広域観光、防災など様々な連携施策が提案され、計画へも反映している。引き続き四国との連携、九州、近畿を含め隣接圏域と連携して施策を実施していくという枠組みは持って行きたい。
- ・計画策定後の実施については、第5章で推進体制や実施のマネジメント、計画のモニタリングといった項目は入れている。住民参加のような進め方についても事項としては盛り込んでいるが、これを具体化することが重要と考える。広域地方計画協議会がコアとなり、計画の推進についても議論していきたい。具体的な進め方について計画策定後、速やかに皆様方

と協議していきたい。

- ・この計画への一般の方々の関心については、PRは施策を推進する中で大事と考えます。今日おいでいただいているマスコミの方々等、いろんな機会を通じて理解を深めていきたい。

(国土計画局)

- ・広域地方計画は7月末～8月初めには決定したいと思っている。
- ・関門海峡架橋について、昨年の国会で海洋架橋は個別調査を行わないという表明を国土交通大臣からしている。一方で地域としては期待も大きい、交流連携を進めるためにも広域的なネットワークは必要という指摘は各ブロックで意見をいただいている。従って今の時点で海を介したネットワークづくりという記載をさせていただいている。
- ・多文化共生について、今後の中国地方の発展を考える上で、海外の企業を呼んでくることも必要。日本人だけでなく、あらゆる人に開かれたまちづくりを進めることが必要ですので、具体化することについて取組をしていきたい。
- ・協議会は行政の縦割りを排し地域割を排しご議論いただいた。具体化にあたっては協議会の場を使った広域的、総合的な議論が大事であり、この場をこれからもご活用いただきたい。
- ・中山間地域を正面から取り上げていることが中国ブロックの特色。昨年からは職員に中山間地域に泊まりに行かせる取組をしていますが、そういった体験を踏まえ、中山間地域対策として新しい施策を考えたい。その段階でも、生の声、現地の声をいただきたい。

(会長代行)

- ・今後の手続きについてお諮りしたい。市町村からの計画提案については本日の資料を持って対応したい。最終案については本日の意見、パブコメの意見を踏まえ、協議会としてのとりまとめについては会長に一任していただきたいが、いかがでしょうか。
- ・ご異議がないようですのでご了承いただいたということで、ご了解いただきたい。
- ・社会資本整備方針について、事務局からご説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・社会資本整備方針については、本日の意見を受けて策定していきたい。

(国土交通省技監)

- ・いろんな課題がありますが、今日の状況もありますので、さまざまな壁を越え、国と地方がパートナーシップの精神で乗り越えていきたい。

4. 閉会

(中国地方整備局)

- ・計画策定に際しては、県境を意識しない、一体性を持つことに留意した。
- ・みらいビジョン中国21については、中国地方整備局の公約のようなもので、広域地方計画には各担当部局も参加していますので、それぞれ具体化に向けての取組をお願いしたい。

- 以上 -